

## 高校1年生対象進路交流会「しくじり先生」(2025.10.13)

高校1年が、初めての試みとして、社会の第一線で活躍する先輩6名と生徒の交流会を企画しました。会は大いに盛り上がり、生徒に大きな刺激を与えました。以下はその担当教員（本校卒業生）によるレポートです。

ラ・サールの同級生6名（全員40代半ば）に協力してもらい、高校1年生対象の「進路交流会」が実現しました。題して「しくじり先生」。

高1の生徒は文理の選択を控えています。「自分の将来をどうしたいか」を具体的に問われる初めての機会といえるかもしれません。迷いなく決まっている生徒もいれば、どうしようか決めかねている生徒もいます。もちろんここでの選択が人生のすべてを決めてしまうわけではないにせよ、生徒たちの今後にとって大事な意味を持つ選択であることは間違いないでしょう。

そのような時期に、生徒が多様な大人と触れ合える機会を作りたいと願っての今回の企画。OBたちは失敗や挫折経験を含め、赤裸々に語ってくれました。

以下、概要です。

生物が好きで理系に進学し、研究職を志すも道半ばで一度は薬剤師になったM氏は、現場の現実になんて納められず、一念発起して医学部に入り直しました。現在は医師として活躍中。

高校時代に「資格で食っていこう」と決意し医師になったF氏は、現在では地域医療の中核を担っています。

「つぶしが効くから」と理系へ進み、博士号までとったところで将来に迷ったE氏は、一度は就職するも安定への安住を恐れ、転職を決意。弁理士資格を取得し、現在は自分の強みを活かして働いているとのこと。

入学した大学になんて納められず通わなくなったY氏は、実家の会社に入社するも全く役に立てず、寺に入って再起を誓います。袈裟を着て挑んだセンター試験を経て医学部合格。現在は医師免許も活かして会社を営んでいます。

浪人中に異性との出会いも含め「世の広さ」を知ったU氏。結婚・就職後は仕事にのめり込み、挫折や失敗の中で「やればできる」を実践・実感しつつ、挑戦を続けてきました。企業内起業を経て、二拠点で活躍中です。

大学進学後、「文系を選んだことを後悔」したK氏は、地元に戻って家業を継ぎ、週7日・1日15時間労働で技術（機械工学）を学び直したそうです。「やればできる!」と語りつつ、「挑戦は早い方がいい」とも。

かくも多様な人生模様です。

全体を通して、こんなメッセージが出されたように思います。

「文理選択よりも、その先を見据えよう。「文系・理系」以上に大事なものは、その先で何をしたいか。学びをどう社会に活かすかを考えること。」

「資格や学歴は、人生の選択肢を広げる。学歴や肩書きは「なくても生きられる」が、「あって困るものではない」

「やるかやらないか。行動を起こすタイミングは早いほどよい。もちろん、いつからでも人生は変えられる。ただし、後になればなるほど困難は大きい」

「知識を使うだけの仕事」はAIに代替される。だからこそ、好奇心・信頼・人間関係が重要。「人と人との関わり」が学びの原点だ」

「今は迷う時期でよい。ただし、何も考えないまま流されるのではなく、考えて、少しでもいいから動き出すことが大事なんじゃないか」

交流会を経て生徒たちの中に残った言葉が、彼らが動き出す原動力になってくれたら嬉しいです。



第一部 6人の講師がそれぞれに自己紹介。それぞれに爆笑を誘いました（上2枚と下左）。



その後、先輩たちに文理選択について語っていただきました。OBの仲の良さが生徒の印象に強く残ったようです。第2部では少人数交流会として、生徒は自分のクラスに戻り、先輩6名が各クラスにやってきて質疑応答を行いました。1人8分で交代し、すべての先輩がすべてのクラスを回り、活発な意見交換がなされました。（右の3枚）



第3部は再び全員が一堂に会して全体のまとめを行い、熱く語ってくださった先輩方に大きな拍手が送られました。（上と右）

